

芦屋市 学習教室 事業紹介資料

株式会社キズキ 公民連携事業部

本事業は、学習支援・生活支援・養育支援といった事業内容を通じて、「貧困の連鎖」を防止することを目的とする。

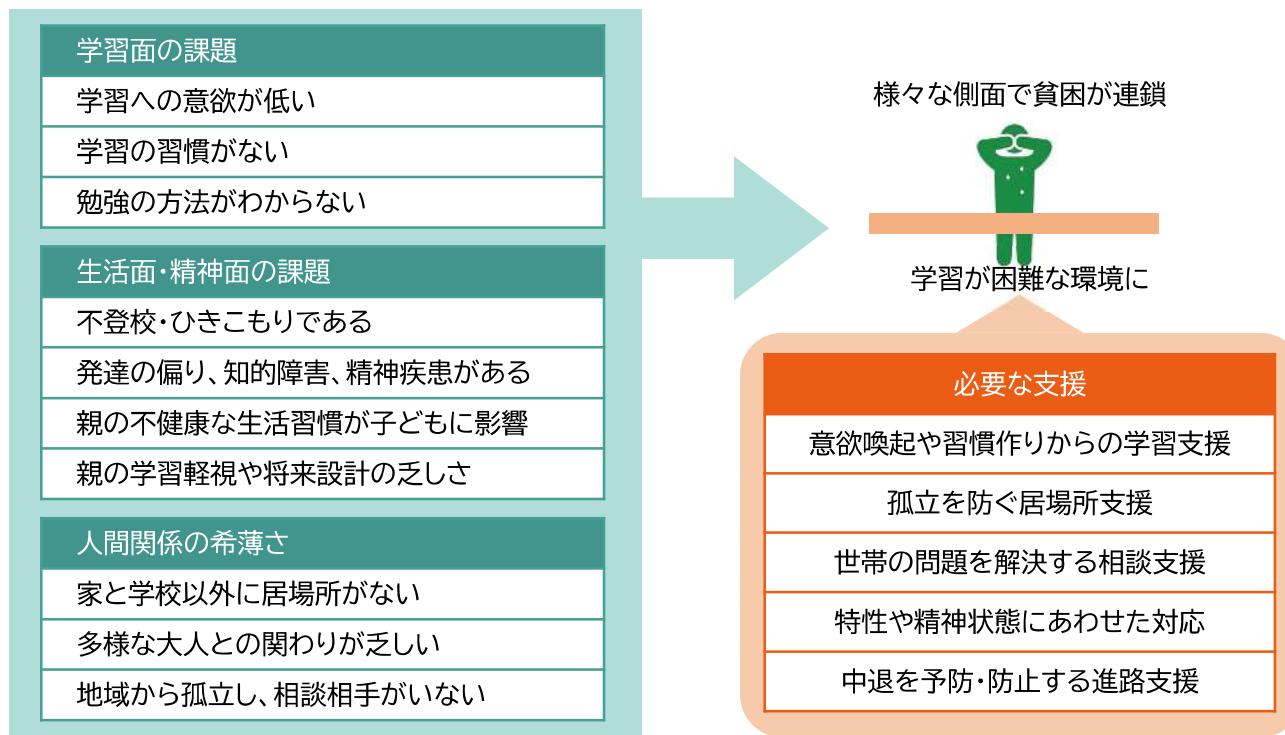
■ 貧困の連鎖を防止する本事業の役割

目的

本事業は、「**貧困の連鎖**」を防止するため、生活保護受給世帯の子どもを含む生活困窮世帯の子どもを対象に、学習支援や生活習慣・育成環境の改善に関する助言、進路選択、教育、就労に関する相談に対する情報提供、助言、関係機関との連絡調整などを通して、子どもの将来の自立に向けたきめ細かで包括的な支援及び世帯全体への支援を行うことを目的とする。（本事業の仕様書「事業目的」より）

< 貧困の連鎖とは >

貧困とは単に「お金がない」という問題ではなく、学習面の課題、生活面・精神面の課題、人間関係の希薄さなど、様々な側面が子どもの将来に影響。親から子どもへと連鎖する貧困の解消には、**教育と福祉の両面から、保護者支援を含む包括的な支援が必要不可欠**。



本事業は、学習支援・生活支援・養育支援といった事業内容を通じて、「貧困の連鎖」を防止することを目的とする。

■ 事業概要のご紹介

実施概要	対象者	小学4年生から中学3年生、事業利用していた高校生及び高校生相当年齢の者で、生活保護受給世帯を含む生活困窮者自立支援法(平成25年法律第105号)第3条に定める生活困窮世帯の子ども及びその保護者
	実施詳細	- スケジュール: 週2回開催、1回2時間程度 - 実施場所: 市内公共施設内
支援概要	学習支援	- 学習のつまずきを把握し、復習や学びなおしを実施。学習の習慣づけをサポート - 中学生・高校生には、高校・大学等受験のための進学支援もあわせて実施
	生活支援	面談等によって子どもや保護者の抱える課題を把握。スモールステップでできるところから改善し、日常生活習慣の形成・改善をサポート
	保護者に対する養育支援	保護者の養育上の悩みの解消や、進学に必要な公的支援の情報提供等を実施
	その他貧困の連鎖防止に資する支援	- 体験格差解消を目的とした季節イベントの実施(七夕、クリスマス等) - 進路検討を主目的としたキャリアイベントの実施

令和7年度は、個々の支援ニーズに応じた学習環境の整備・柔軟な関わりにより、出席率の大幅改善と、学力、自己肯定感・自己効力感向上を実現した。

■ 主な取り組みと具体的成果

出席率の大幅な改善

令和6年度（前事業者）約20%程度



令和7年度（キズキ） 67.5%

安定した出席の維持と、利用者に対し学習機会・習慣の定着を実現

学力、自己肯定感・自己効力感の向上

- 学力確認テスト： ほぼすべての利用者の点数が向上
- 意識変化： アンケートにおいて
「自分は、勉強が得意な方だ」 13% → 50%
「自分に対して自信が持てている」 14% → 67%
といったポジティブな回答割合が上昇



- 小4～高3という利用者年齢層の幅広さを踏まえ、学習スペースを2部屋に追加整備
 - 静かに学習に集中したい層： 落ち着いて学べる環境を確保し、学習意欲を向上
 - 遊び・交流を通じて安心できる居場所を求める層： 長時間の集中が難しい利用者への柔軟な関わり
- 個々の状況に応じた学びなおしの実施により、「できた」という成功体験の積み重ねを実現

効果的な学習支援を継続する一方、困難度の高い利用世帯について、より一層関係機関の皆様との連携を強化し、事業への接続と定着を図ることで、ひとりでも多く支援を必要としている世帯に支援を届けたい。

■ 改善課題と今後の取り組み

令和7年度の改善課題

- 学年相応の基礎学力の定着・向上
 - さかのぼり学習等のアプローチにより、既習範囲の内容定着を実現した。今後の課題は学年相応の基礎内容の定着
- 多様な関係機関との連携の広がり
 - 令和7年度は、主として芦屋市社会福祉協議会様との都度情報共有・連携を実施。今後の課題は連携先を増やすこと

令和8年度の取り組み・実績

- 利用者が主体となる「学習計画」の立案サポート
 - 個々の習熟度に応じたさかのぼり学習等に加え、達成度や理解度を可視化する計画的な学習管理により、内容定着を図る
- 関係機関との連携
 - 社会福祉協議会様、学校教諭、SSW様と情報共有・連携を実施

今後の方向性

- 個々の状況に応じたきめ細やかな学習支援の継続
- 関係機関協働による支援ネットワークの構築・連携の仕組化
 - 複合的な課題を抱える世帯に対し、関係機関との情報共有や連携を密に行い、地域全体で世帯を支える体制や仕組を構築